

「これからの滋賀県立図書館のあり方」行動計画評価シート

重点的な取組み項目	1. 全ての県民へ向けたサービスの実施
-----------	---------------------

取組の成果と課題、今後の方向性

①平成30年度の取組状況

- 市町立図書館からのリクエストに対しては蔵書での対応を基本とし、未所蔵資料については原則購入、購入できないものについては所蔵館を紹介して市町立図書館へ提供した。
- 市町立図書館からのレファレンスについては、当館所蔵資料やデータベースを駆使して即日または1週間を目途に回答した。  
(協力貸出31,759冊(うち購入1,200冊), 所蔵館紹介507(うち県外412件)、レファレンス89件)
- 図書館利用に配慮の必要な人に向け、読書支援機器の整備・障害者サービス用資料の整備・外国語資料の整備を行うとともに、来館困難な方への郵送貸出しをおこなった。  
(機器整備：多機能拡大読書器1台, DASY図書再生機1台, オーバーヘッドスキャナ1台, マルチメディアDASY再生用タブレット3台)  
(資料整備：大活字本60冊, 録音図書33点, マルチメディアDASY125点, 外国語資料114冊 郵送貸出1,354冊)
- 館内環境の改善のため、雑誌コーナーや談話室のレイアウト変更や、フリーwifiの導入を行った。またホームページにFAQページを追加し利用者の便宜を図った。
- 文化ゾーン連携事業や県民活動の発表の場を提供した。  
(文化ゾーンみどりの集い書庫探検・夏休み文化ゾーン子ども探検隊 各1回)  
(土曜サロン12回、談話室におけるパネル展示2回)

②課題と今後の方針

- 県民に確実に図書館資料を提供するために、市町立図書館からの未所蔵資料へのリクエストについては購入での対応を基本とし、所蔵館紹介を併せながら必ず提供を行っていく。
- 図書館利用に配慮が必要な人々の読書への障壁を軽減するために、整備した読書支援機器等や資料について利用者や関係機関への周知を図り利用を促進する。
- 文化ゾーン連携事業・県民活動の発表の場の提供について引き続き実施するとともに広報にも努める。

○成果指標・事業目標	H30目標	H30実績	達成率
県内公共図書館の県民一人当たり貸出冊数	7.80冊	7.75冊	99%
県内公共図書館への協力貸出冊数	33,000冊	31,759冊	96%
図書館ホームページアクセス数	380,000件	349,272件	92%
県立図書館来館者数	240,000人	226,551人	94%

自己評価

- いずれの指標も90%以上ではあるものの達成には至らなかった。
- 全ての県民へ向けた図書館サービスを充実させるには、リクエスト制度のさらなる周知により図書館の利用につなげるなどの取り組みが必要である。

図書館協議会の意見等

- 全国的に貸出冊数の減少が続いているなかで、県民一人当たりの貸出冊数の目標達成率が99%なのは大いに評価できるが、各指標の未達成の理由の分析は必要である。
- リクエスト制度の周知、県立図書館の特性やサービスについての周知について、具体的な方策をたてることが必要である。
- 図書館利用に配慮が必要な方々へのサービスについてもっと強くアピールするべきではないか。
- 利用者アンケートにみる来館者の「期待通りでなかった」部分について、何が「期待どおりでなかった」のかを分析する必要がある。
- 利用者アンケートによるとホームページの認知率が約30%であり、非来館者はもっと低いであろう。ホームページの認知度をあげる工夫が必要。
- インターネットの各ページ内からFAQへの誘導があるとさらに便利になる。

**重点的な取組み項目** 2. 県内各図書館の人・資料・情報をつなぐネットワークの整備・充実

**取組の成果と課題、今後の方向性**

- ①平成30年度を取組状況
- ・司書巡回を担当チーム制を導入して各館の状況把握や、よりきめ細かい助言や情報提供に努めた。(各拠点館へ6回、各地域館へ2回)
  - ・図書館職員向けの研修を従来の3講座に加え、より専門的に学ぶ講座を新たに2講座開催した。(延べ425名の参加)
  - ・市町立図書館職員の研修受け入れを行った。(5日間 1名)
  - ・県公共図書館協議会において統計業務に関する事例研究をおこなった。(参加者25名)
  - ・県大学図書館連絡会へ参加した。(2回)
  - ・利用者のリクエストに応えるため、県外図書館との相互貸借を行った。(貸出1,526冊 借受287冊)
  - ・国立国会図書館へ当館レファレンス事例の提供を行った。(44件)
  - ・中国湖南省図書館との資料交換を行った。(図書100冊送付、50冊受取)

- ②課題と今後の方針
- ・市町立図書館職員とのより緊密な情報交換や有効な助言を行うために、司書巡回について昨年度導入した担当チーム制の検証を行い、巡回体制を検討する。
  - ・県内図書館職員の資質向上のために、引き続き県立図書館主催の研修5講座を開催し、満足度の高い研修を目指す。
  - ・レファレンス事例の提供は全国的なレファレンス業務の向上につながるだけでなく、当館の広報にもなるものとして引き続き積極的に行う。

○成果指標・事業目標	H30目標	H30実績	達成率
県立図書館職員が訪問した市町立図書館の延べ館数	183館	200館	109.3%
県立図書館による資料提供に対する市町立図書館の満足度	80%	87%	108.8%

- 自己評価
- ・2つの指標とも目標を上回った。
  - ・資料提供に対する市町立図書館の満足度に関して、不十分であった部分については各図書館ごとにきめ細かな対応をし、満足度の向上を図る必要がある。

- 図書館協議会の意見等
- ・市町立図書館への司書巡回は担当が決まっている方が相談などしやすいと思われるので担当チーム制がよい。
  - ・市町の図書館それぞれの課題や求めている支援に対する細やかな対応をお願いしたい。人口増加地域と減少地域の図書館への情報提供のあり方を検討すべきである。
  - ・市町立図書館の満足度を上げるために「不十分」な部分の具体的な内容について分析し、改善する方法を探ることが必要と思われる。
  - ・県立図書館主催の研修に学校司書が参加できて好評だった。今後も継続を願いたい。またこの研修が学校司書と公共図書館司書が交流する機会となってほしい。
  - ・国立国会図書館へのレファレンス提供は大切であり、継続してほしい。特に琵琶湖、水、生態系に関するレファレンスの参照回数も多く、今後も全国的に滋賀の情報が活用される可能性があると考えられる。

重点的な取組み項目	<b>3. 地域の課題解決に向けた情報提供・情報発信</b>
-----------	--------------------------------

<b>取組の成果と課題、今後の方向性</b>
------------------------

①平成30年度の取組状況

- ・「産業育成のための基盤整備事業」において県内中小企業等の創業および経営の改善や新たな事業の創出を支援するための工学やビジネス関連図書の整備を行った。(834冊)
- ・県施策に関連した図書展示を館内で行った。(5回)
- ・県の施策や各部署の取り組みを紹介するパネル展示の場を提供した。(4回)
- ・県機関主催セミナー等へ内容に関連した図書の出張展示を行った。(16回)
- ・県機関に対する図書の貸出を行った。(5機関 656冊)

②課題と今後の方針

- ・県民の学びをさらに深める機会を提供するため、引き続き県主催のイベントやセミナー等への出張図書展示を実施し図書館資料の紹介をするとともに、展示会場において県立図書館をアピールして利用の促進を図る。
- ・県政の課題解決支援のために県機関への資料の貸出しやレファレンスを引き続き実施するとともに、そうした県立図書館の機能を県機関へ広報する。
- ・県の取り組みを県民に広報する場として、引き続き県立図書館のスペースを県機関のパネル展示等に提供し、併せて関連図書展示を行う。

○成果指標・事業目標	H30目標	H30実績	達成率
県関係部局との連携展示回数	23回	21回	91.3%

<b>自己評価</b>
-------------

- ・目標回数には至らなかった。
- ・図書館のこうした活動を県庁内に広く知らせることで連携先をさらに開拓していく必要がある。

<b>図書館協議会の意見等</b>
-------------------

- ・出張図書展示は県立図書館の存在を周知するよい取り組みと考える。今後も継続し、機会を増やしてほしい。また出張展示の際貸出しも行うとより効果が上がるのではないかと。
- ・本項の指標は「回数」だが、内容も大切である。
- ・図書館と県の機関、あるいは企業との連携はどんどん進めていくべきである。連携内容は図書展示・パネル展示以上の関わりをしていくべきで、「行動計画」の「行動の方向性」の方向で事業を進めることが重要と考える。
- ・地域課題の解決に向けた取組については、県の他部局と連携しながら多様な展開をしてもらいたい。
- ・地域課題の解決に向けた図書館の役割について、庁内のみならず広く社会に向けて知らせていくべきである。

重点的な取組み項目	<b>4. 子どもの読書活動の推進</b>
-----------	-----------------------

**取組の成果と課題、今後の方向性**

①平成30年度の取組状況

- ・児童書については全点購入を原則に整備し、汚破損資料の買い直しも積極的に行った。  
(児童書整備 3,957冊)
- ・児童室へ県産木材製書架の寄贈を受入れ、美観と利便性を向上させた。
- ・児童室の赤ちゃん向け紙芝居を分けたり、参考図書を別置するなど配架の改善を行った。
- ・児童書研究室のレイアウトを見直し、利用者にも使い勝手がよくなるよう改善した。
- ・子ども・青少年局と連携して「ひとり親家庭サポートだより」において児童書の紹介を行った。  
(2回)
- ・県機関主催の子どもの読書に関する講座等に職員を講師や助言者として派遣した。  
(7回)
- ・ホームページに学校図書館向けページを開設し、学校図書館リニューアルマニュアルや学校図書館支援用図書リストを掲載するとともに、こどものページには読み聞かせ用大型紙芝居の目録を掲載した。

②課題と今後の方針

- ・引き続き児童書の全点購入による閲覧・貸出用資料の整備に努める。
- ・新規事業「子どもの読書に関わる人々への支援事業」において、常時利用できる研究・選定用資料の整備に努めるとともに、資料の展示会や講座等への出張展示などを通じて各図書館や団体等に周知して利用を促進する。
- ・子どもの読書への理解を広げるために、県機関の実施する講座等へ講師の派遣を行うとともに、当該機関と協議して有効な講座となるよう支援する。
- ・子どもが自ら楽しんで読書できる環境づくりのため、新規事業「楽しむ読書応援事業」において、学校図書館のリニューアルや運営改善を支援する。
- ・学校図書館の活性化に向けて、学校図書館支援用図書の広報に努め、利用の促進を図る。

○成果指標・事業目標	H30目標	H30実績	達成率
県内公立図書館の児童図書貸出冊数 (12歳以下の県民一人当たり)	24.2冊	24.1冊	99.6%
学校図書館支援用図書の貸出冊数	320冊	537冊	167.8%

自己評価

- ・児童書の貸出冊数については目標にはわずかに達しなかった。
- ・子どもの読書活動の推進については、市町立図書館や関連機関等と連携して保護者の啓発や子どもの読書に関わる人々(読書ボランティア等)への支援を行うとともに、子どもに身近に本がある環境を作り出すために、学校図書館のリニューアル等読書環境の整備をさらに広めていく必要がある。

図書館協議会の意見等

- ・児童書の全点購入はありがたい。本の楽しさ、読書のおもしろさが浸透するための環境整備を広げてほしい。
- ・「県内公立図書館の児童図書貸出冊数」達成率は99.6%だが、平成29年度も24.1冊であり、平成30年度で減ってはいないことは評価できる。
- ・「ひとり親家庭サポートだより」での児童書紹介は今後も続けてほしい。さらにいろいろな手段を通じての保護者への啓発に努めてほしい。
- ・ホームページの学校図書館向けのページについてはもっとアピールする必要がある。学校図書館支援図書についても周知が徹底できていない。生涯学習課などの協力を得て、各校種の校長会や学校図書館に関する研修会や研究会でアピールしてはどうか。
- ・学校図書館への支援活動は図書利用の環境向上に良い影響を与えると考える。さらに学校図書館関係者への研修等の支援を願いたい。

重点的な取組み項目

5. 図書館サービスについての情報発信・周知

取組の成果と課題、今後の方向性

①平成30年度 of 取組状況

- ・文化ゾーン連携事業を含め、計3回の書庫探検を実施した。書庫探検実施に当たっては、県立図書館を紹介する時間を設け、県立図書館の業務についての周知を図った。(のべ参加者数181人)
- ・ホームページ「図書館からのお知らせ」「図書館トピックス」において行事等の周知や開催報告などを掲載した。(127件)
- ・メールマガジンによって、新着図書や行事のお知らせを配信した。(新着図書50回, 行事案内3回)
- ・行事等について報道機関等への資料提供を行った。(22回)
- ・メディアの取材に対して協力し、外部媒体において当館が紹介された。(地域情報誌1回, テレビ放送1回, 新聞6回)
- ・県公共図書館協議会において、滋賀県の公共図書館をアピールするポスターを作成、配布した。(800枚)

②課題と今後の方針

- ・県立図書館の資料やサービスを知ってもらうため、引き続き、様々な媒体を利用して図書館利用を促すための情報発信に取り組む。
- ・資料提供を行うとともに、メディア等に掲載されたことをホームページ等でもアピールしていく。

○成果指標・事業目標

H30目標

H30実績

達成率

報道機関等への資料提供回数

21回

22回

104.8%

自己評価

- ・目標回数を上回った。
- ・提供した事柄が掲載されるよう、表現方法を工夫してアピール力を高める必要がある。

図書館協議会の意見等

- ・県立図書館の良さやサービスについて、報道機関、ホームページを通じてのアピールを継続的により広くPRすることに努めてほしい。
- ・様々な取り組みがなされているが、指標が「報道機関への資料提供回数」だけであることに不十分さを感じる。提供回数とともに、実際に掲載された回数も併せてみていくことも必要である。
- ・各メディアで紹介されたことをホームページで紹介するのはいいことだと思う。
- ・情報発信によって情報を届けたい対象にしっかりと届いているのか。対象ごとに方法を変えることも必要ではないか。

重点的な取組み項目	6. 図書館サービスを支えるための基盤整備		
<b>取組の成果と課題、今後の方向性</b>			
<b>①平成30年度を取組状況</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・滋賀資料・水資料をはじめ、専門書や学術書を重視した図書整備を行った。 (滋賀資料1,370冊, 水資料291冊, 参考図書644冊, 行政資料693冊)</li> <li>・資料保存センター業務として、市町立図書館から移管された資料の受入れを行った。 (図書842冊, 雑誌164誌)</li> <li>・職員の資質向上のため、職員を外部研修等へ参加させるとともに、館内で全職員対象とした研修を実施した。 (研修参加のべ43人、うち県外研修等への参加8名 館内研修8回)</li> </ul>			
<b>②課題と今後の方針</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民の知の拠点となる資料整備のため、引き続き全県的な利用を考慮した資料の整備に努める。</li> <li>・資料整備の方向を明確にするため、図書整備計画の策定に取り組む。</li> <li>・資料保存センター業務については、より有効な方法について市町立図書館と協力しながら検討を進める。</li> <li>・司書の専門性の向上を継続的に図るため、職員の研修の機会の確保に努める。</li> </ul>			
○成果指標・事業目標	H30目標	H30実績	達成率
年間受入冊数	19,860冊	21,170冊	106.6%
県立図書館職員が研修に参加した延べ人数	31人	43人	138.7%
<b>自己評価</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの指標ともに目標を上回った。</li> <li>・滋賀資料・水資料においては市販資料だけではなく、非売品等の刊行情報を捉えて積極的に寄贈依頼等を行うことにより資料の整備を行い、受入れ冊数を伸ばすことができた。</li> <li>・当館職員の研修については、可能な限り県外への参加を行うとともに、自館または県内で外部講師を招いての研修には積極的な参加を促し、目標以上の人数が参加することができた。</li> </ul>			
<b>図書館協議会の意見等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民の知の拠点として、目標が達成できたことはよかった。資料の充実と利用には市町立図書館との連携が大切である。今後も必要な情報を相互に共有し、今後の資料整備の方向性に沿った展開を期待したい。</li> <li>・向上心を持つ職員(人)がいることが、信頼される図書館であることの一歩大切な条件だと思う。様々な条件との兼ね合いもあるだろうが、今後も研修への参加の目標達成は是非してほしい。</li> <li>・図書館サービスを支えるために、今後も一定の資料費の予算確保に努めていただきたい。</li> </ul>			